

第1回 議事録

会議名：第1回新型コロナウイルス感染症検討会

日時：2020年8月28日 17:00~18:30

場所：北野建設本社ビル8階

出席者：唐澤座長、河野副座長、土田委員、星野委員、杉山(公)委員、杉山(裕)委員、新津委員、金澤委員、加藤委員、富田オブザーバー、増井オブザーバー(田口オブザーバー代理出席)、沖川オブザーバー(宮田オブザーバー代理出席)、北野会長、岩尾専務、赤穴事務局長、岩田参与、芳賀会長補佐、宮沢局員、高松書記

1. 議題・目的

各団体、業界から様々なガイドラインが出ている中で、協議会としてのコロナウイルスに対するガイドラインを策定する。また、三密をどう減らして行くのか、コロナとどう共存して行くのか、どうスキー業界を盛り上げて行くのか等の議論を進める。第2回でガイドラインの叩き台を提案し、第3回で確定する。

2. 決定事項

- ・ガイドラインを作るにあたって索道、プロスキー協会、旅館なりそれぞれの団体の意見、専門性を基本的に尊重する。ガイドラインは数字でがんじがらめにするのではなくあくまでベースとなるようなものにし、細かい部分は各団体が運用する。
- ・お客様に対して安心安全という気持ちをもっていただくことが大事。また、中途半端なルールを作ることお客様に不安や不満を持たせるようではいけない。ガイドラインでは前書きとしてスキーはコロナと共存できるとした上で問題があるところに対してガイドラインを示す。スノースポーツ関係者が共通のガイドラインを作ることでお客様を安心させる。

3. 議論内容

- ・日本スノースポーツ&リゾート協議会の出すガイドラインの位置付けはどうか？他のそれぞれのガイドラインとの関係性、優越関係(金澤委員)→基礎的な部分は揃える。それぞれの団体のやり方を尊重するのが前提であり協議会として関係者のガイドラインを調整し取りまとめながら進めて行くべき。(岩尾専務)
- ・今後、ガイドラインがアップデートされる頻度はどうするのか。(金澤委員)
- ・スキー場の感染リスクの程度、お客様を安心させられるようなエビデンスはどうか。(杉山(公)委員)→スノースポーツは屋外でありリスクは低い。接触、飛沫が危険なのであり、スキー場付近の感染者数が少なければそこまで過敏になる必要はない。(土田委員)
- ・感染症に対して安全であることは大切であるが同時にお客様の安心という心理的な側面も大切であり、取組内容についてはしっかりとお客様に伝えていくことが必要。(宮田オブザーバー)
- ・スキーといっても様々な業界が絡んでいるため幅広い対策を行うことが必要。(富田オブザーバー)
- ・お客様は安心安全を求めている。ガイドラインにしっかり沿って対策を講じることで安心を与えられるようにするべき。(星野委員)
- ・スノースポーツは感染リスクが低いというポジティブな前提を明確に提示した上でガイドラインを作れると良い。(杉山(裕)委員)
- ・三密回避が最も重要。正しく恐れ、too muchにならないようにする必要がある。必要以上の対策は需要を減退させ、マイナス効果となる可能性もある。ガイドラインは網羅的であるのと同時にクリティカルポイントを重視しメリハリがあるものにすべき。(加藤委員)
- ・コロナ禍においてもスノースポーツは発展の可能性はある。リゾートとの関わりも強く横連携のあるガイドラインを作って欲しい。(田口オブザーバー)
- ・規模の小さいスキー場も考慮に入れるようなガイドラインにするべき。(金澤委員)
- ・ガイドラインに数字を入れすぎることにより後に顧客のニーズに合わなくなったり、従業員が苦慮することになる可能性もある。各団体が特性に合った補助のガイドラインを作り対応していくのが良いのではないか。(星野委員)
- ・スノーリゾート自体を安全なものにしていくことが最も大切。細かく規定しすぎて不可能なものとなってはいけない。スキーは感染リスクが低いという正しい情報を積極的に発信すべき。(加藤委員)
- ・協議会としては一つベースとなるガイドラインを作って各団体で運用してもらうのが良い。(杉山(公)委員、岩田参与)

4. 次回議題

第2回では協議会としてのガイドラインの叩き台を提案する。